



## 港町のゲストハウスで知る、豊かに暮らすことの意味

近所の魚屋で、とてもいいイワシを手に入れた。帰り道、頭の中で今日の献立に思いをめぐらせる。そうだ、ツミレにしておでんにしようかな。ガレージハウスのキッチンに立ち、無心に料理をする時間が好き。やがて日が暮れ、鍋からは美味しそうな匂いと湯気。それに誘われたかのように、友人たちがやってきた。「まるで小料理屋の女将みたいだね」。そう笑う友人たちと、料理をつつきあい、お酒を愉しむ。クルマや自転車や工具に囲まれた、

吹き抜けのキッチンダイニングで過ごす気兼ねのない時間は、ゆっくりと静かに更けていく。まるで我が家のように、本当は港町にほど近いゲストハウスでの1日。遠くに旅をしなくても、旅人のような気分と心からのくつろぎを与えてくれる場所なのだ。

日常と非日常の間にあるこの建物で、味わい、語り合い、好きな人たちと思いを共有する。その1秒、1分の積み重ねが教えてくれるのは、暮らすことの喜び。

